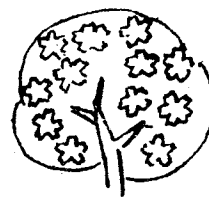


診断京都

No. 69



(題字 品川支部長筆)

2002年 春季号

この冊子は(社)中小企業診断協会京都支部が発行しております

社団法人 中小企業診断協会京都支部

診断士それぞれの旅立ち

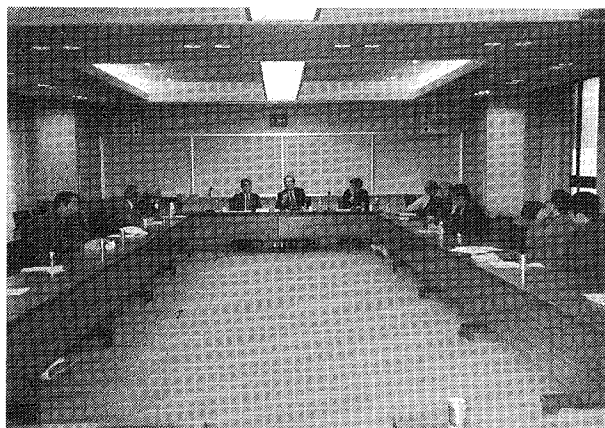
「起業シンポジウム報告」

玉 垣 勲

目 的 会員サービス、とくに企業内会員へのサービス提供を主眼とした。また、非会員にも呼びかけ、会員メリットの一端を紹介した。

内 容 ベテランの診断士のショートスピーチの後、3名のパネラーの討論(パネルディスカッション)討論ではパネラーに質問続出、時間オーバーとなった。

1. 日時 12月9日(日)
13時30分～16時45分(3時間30分)
2. 会場 池坊学園会議室
3. パネラー3名
山崎 忠夫氏(支部常任理事)
西河 豊氏(支部会理事)
中路 悦雄氏(支部会員)
4. 参加者22名(うち企業内会員11名 非会員5名)
司会・進行: 辻井常任理事



パネルディスカッションでは、山崎忠夫氏が「それぞれの歩みを本音で語りたい。診断士から社労士へ、社労士の仕事は事務所に大方任せている。私の仕事の多くは診断業務である。」

続いて西河豊氏が「勤務先破綻で即独立開業、毎日が本番である。顧客の要望に即応えられるようにしている。何とかなるし、そうしている。」さらに中路悦雄氏は「印刷屋のおやじもいいもんや、診断をしていて、独立を考えていたが、ひよんなことで、専務にヘッドハントされた。勉強になる。がんばっている、充実している。」と話した。

質疑応答のあらまはは次の通りです。

質問1 独立の動機は

- 回答 (パネルA) 社労士として出発。その時から中小企業診断には関心あり。あるコンサルタント会社で学び、その後に診断業務に進出した。
- (パネルB) 予期せざる職場破綻で即自営、行き当たりばったりであるが、その都度、勉強。苦勞もあるがやりがいもある仕事である。
- (パネルC) 大手の会社にいたが、その当時から独立の意向はあった。ひょんなことでお誘いもあり、独立を決意。

質問2 診断士の儲けは

- 回答 (パネルA) 調べたことはないが、最近では診断業務で稼ぐ機会が多くなっている。
- (パネルB) 社労士、診断士業務半々程度か。
- (パネルC) 給与はサラリーマン時代より少々減った。



質問3 得意分野を生かすには

- 回答 (パネルA) 知識、技術の習得につとめている。診断士、社労士セットも生きている。
- (パネルB) 勤務診断士時代の経験が生かしている。さらに磨きをかけたい。
- (パネルC) 会社の管理者でいるより、経営者として充実した日々を送っている。

質問4 独立してよかったことは。

- 回答 (パネルA) 自分の能力が発揮できる。評価は顧客であるが、謙虚さは常に必要。
- (パネルB) 勤務診断士として実力を磨いていけば、その経験が独立後に生きる。
- (パネルC) 毎日が楽しい。人それぞれの生き方がある。いまのところ満足。

質問5 これから独立する人へのアドバイスは。

- 回答 (パネルA) 実力の涵養。
- (パネルB) 独立したら何とかなる。
- (パネルC) 勤務でいくもよし、独立もよし。個性発揮が大切。

全体の印象

パネルは自らの実体験を披露、参加者の質問にも本音で語っていた。討論は白熱。職業人としての診断士の社会的地位は必ずしも高くないが、自立、企業内を問わず、診断士の地位の向上に参加者1人1人の精進、支部の組織力発揮を確認した。

支部の事業として、今度の様に参加者が積極的にテーマに発言できる「パネルディスカッション」形式のイベントを年1回は開催する必要性を痛感した。

《パネルプロフィール》

山崎氏：関西電力を経て独立。平成4年に会社設立。昨年に2冊書籍出版。

西河氏：信金勤務の後、独立。大学で講師も担当。

中路氏：勤務時代に同大大学院卒業。IT分野が得意。

総務

[会員消息] 平成13年12月以降分

(転入) 最明 崇幸
愛知県支部より
住所: 伏見区京町 3-183-1
リビエール桃山 902
勤務先: 有限会社 ジネンコーポレーション

研修

・第2回支部研修会

1月17日(木) 15時
テーマは「J I S化されたリスクマネジメントシステム」

講師: 北出 至氏

場所: 池坊学園(四条室町下る)

参加者: 16名

・経営革新研究会

2月13日「戦国武将に学ぶ経営戦略」

講師: 高木健次氏

参加者: 13名

3月13日

①「IT研究会報告」

講師: 松井 宏次氏、木津 要三氏

②「中央会の概況と企業組合制度」

講師: 西村勇司氏

参加者: 20名

・IT研究会

平成13年活動として「京都ブランドビジネスモデル分科会」と「中小企業向ソフトウェアパッケージ分科会」の研究をし、成果を上記研究会に報告した。

事業

・本部助成事業

事業可能性評価基準策定

・新年祝賀交歓会

1月17日(木) 17時30分

場所: 三井アーバンホテル(西洞院四条下)

参加者: 19名(来賓 8名)

・無料経営相談

3月13日京都産業21主催「京都ビジネスパートナー交流会」に参加。経営相談コーナーを担当
参加者: 5名

広報

・ホームページは支部事業の紹介や診断京都をホームページからダウンロード出来るようにするなど内容の充実に取り組んだ。

・メーリングリストは64名が参加、事業案内や会員同志の情報交換に活発に利用されている。

・会報「診断京都」

13年度は年4回の発行に取り組んだ。発行回数、内容、HPとの関係等について会員からの提案や会員からの投稿をお待ちしています。

会計

・会費は下記口座に納めていただきますようお願いいたします。

郵便振替口座 01020-8417

社団法人中小企業診断協会京都支部

(診断士会事業)

・京都市支援センターIT教室

2月4日から8日の5日間

松田幸之助氏を主担当講師

・中央会助成金事業

13年度分1件終了

・中央会HP事業に参加予定

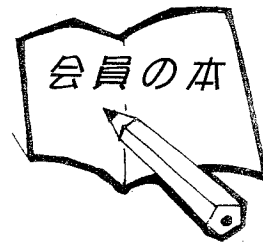
・中央職業能力開発センター関係

14年度も実施予定

・非自発的離職者対応セミナー

2~3月起業家学校において開催

詳しくは診断士会へ問い合わせください。



「P2Pイノベーションのすべて」

(ユビキタスで創造する新しいネットワーク)

著者 坂田岳史(当支部会員)

出版社 日本実業出版社

定価 ¥1,500

近年のインターネットは、P2P (Peer To Peer) などの新しい技術やユビキタス化により大きく進展しようとしています。

本書ではインターネットの進展を踏まえた新しいネットワーク社会を大胆に創造しています。
(坂田 岳史)

(^^♪ (^_^) (#.^.#) !(^^)! (-_-;) (>_<)

Chat de chat

◆編集長より柔らかい話を書いてほしいとの依頼です。日頃「かたぶつ」で通っている筆者に対する無理難題で、とても許せないことです。

◆それはともあれ、私の若い頃、ある大変優秀なセールスマンといわれた方とお目にかかったときの事です。開口一番「イヤー、今日大変面白い事がありました」と。続いて、その日の朝の出勤の電車で起きた出来事をこと細かに語ってくれました。それは、車内で何か争いが起こった模様で4～5人の男が1人の小男と口論となり、次の停車駅でこの小男は男たちに引きずり降ろされました。「あっ、この人はヤラレル」と思いきや、鋭い気合いとともに、逆に小男の方が空手で取り囲んだ男達を薙ぎ倒してしまい、そのあと何くわぬ顔で電車に乗り込んだ瞬間、電車のドアが閉まった——と。

◆数年後、ヒョットとした事で上記のセールスマンの方とお目にかかる機会がありました。話の途中で、また上記の武勇伝を始めたのです。(いや、十年程たって、この話を覚えていた私も大変覚えがいい?)

◆この時、始めてこれが彼のセールスの話題だったのだと気が付いたのです。

◆皆さんも生命保険のセールスマンから「両手首を裁断機で切断して、保険金を支払った」という話を聞いたことはありませんか。

◆これがセールス話題の一つなのですね。イヤ、イヤ、結局、硬い話になりましたか！ スミマセン、私としたことが。

◆ただ、話題は常に幾つか用意しておかないと、人との面談中に話が途切れた時、互いに気まずい沈黙に陥ってしまいます。煙草を吸う人は、この場合に一服入れることにより間が取れるといひます。喫煙しない者にはこれもできません。尤も世の中には、「聞き上手」もいて「イイエ、イイエ」、「ナンノ、ナンノ」、「ドウイタシマシテ」などと相槌を入れて相手から話を聞き出すタイプの人もいますが、これは論外です。(田中)

人生第二幕

中小企業のIT化を支援する 木津要三さん (71)

自分の経験を世の中の役に

適切なアドバイス 信頼厚く



これほどの経験を武器に情報の流通を促進するべく、(前掲) 木津要三さん(71)は、中小企業のIT化を支援するべく、大勢の東大生に生計、学業を支援してオゾン入り、情報機器の普及を促すべく、この「第二幕」の幕を開く。先生は、IT化の推進に力を入れ、中小企業のIT化を支援するべく、大勢の東大生に生計、学業を支援してオゾン入り、情報機器の普及を促すべく、この「第二幕」の幕を開く。

当支部の木津要三相談役のご活躍の様子が1月22日京都新聞夕刊に紹介されました。

編集後記

予定より少し遅れましたがお届けします。年4回発行はなかなか忙しいと痛感しています。投稿お待ちしております。

(編集担当一同)

診断京都 No. 69

2002年4月1日発行

社団法人 中小企業診断協会京都支部

〒600-8009 京都市下京区四条通室町東
京都産業会館内
TEL (075) 213-7980
FAX (075) 213-7981

メール smecakyo@mail.joho-kyoto.or.jp
ホームページ http://www.joho-kyoto.or.jp/rmcakyo

印刷所 岡本印刷 TEL (075) 344-9859
FAX (075) 344-9925